

- 1 主題名 よりよい校風をめざして 4-(6) 愛校心
- 2 資料名 一夢を奏で続けてー「どんぐりピアノ」(出典 「宮代町教育委員会郷土開発資料」)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題である高学年の内容項目4-(6)は、「先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる」ことをねらいとするものである。これは、学校や学級の集団とのかかわりに関するものであり、先生や学校の人々を敬愛し、学校を愛する心をもった児童を育てようとする内容項目である。この内容項目の「学校への敬愛」は、低学年内容項目4-(4)「先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする」から始まり、中学年内容項目4-(4)「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。」を受けている。そしてさらに中学校では、4-(7)「学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。」につながっていく。

この期の児童は、高学年として様々な学校行事や学校生活の中で中心となり、学校を支える立場となる機会が多くなる。特に学校全体の行事や活動は、自分たちの学校への愛着と誇り、教師をはじめ、家庭や地域の方々への感謝につながる大切な教育活動である。人は誰でも集団の中で育ち、集団の中で生きていく。自分が所属する集団に愛着を持ち、集団のさらなる発展を願う思いや態度は、よりよく生きていくうえで大変重要である。そのため、学校の中心となって活躍するこの時期、最高学年段階としての自覚を持ち、学校を愛する心を具体化する指導を心がける必要がある。特に学校の一員としての自分の役割を自覚し、みんなで協力して自分たちの学校をよりよくしようとする心を育て、よりすばらしい校風をつくるために積極的に取り組む態度を養い、具体的に実践できるよう指導することが大切である。

そこで、須賀小学校の大先輩たちと自らの行動を重ね合わせて考えることで、自分たちが校風を担っていることに気づき、先生や学校の人々への敬愛の念を一層深めてほしいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

本校は、創立から100年以上も年月を重ね、地域の中でも伝統深い小学校である。卒業生の数も多く、親子そろって本校出身という場合もめずらしくない。そのため、本校には数多くの卒業生や地域の方などの願いや歴史がまつており、地域の大切な財産となっている。

本学級の児童は「HAND IN HAND」を学年の合言葉に委員会活動や係活動、学校行事などに意欲的に取り組んでいる。様々な行事の中でリーダーとして下級生と関わったりする中で、高学年としての自覚も少しずつ出てきている。「ソーラン節」にも4年生から取り組み、運動会や地域の行事で披露するなど、須賀小学校の伝統をしっかりと引き継いでいる。児童に以下のようなアンケートを行った。

<p>1. 須賀小の自慢できることは何ですか。(複数回答可)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かえでの木…36人</li> <li>・ソーラン節…6人</li> <li>・みんな仲良し…5人</li> <li>・緑が多い…3人</li> <li>・伝統行事が多い…2人</li> <li>・給食がおいしい…1人</li> </ul>	<p>2. これから先、須賀小をどのような学校にしたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たのしく通える学校…15人</li> <li>・みんな仲良しの学校…11人</li> <li>・きれいな学校…4人</li> <li>・いじめのない学校…3人</li> <li>・助け合える学校…3人</li> <li>・その他…4人</li> </ul>
--	--

以上の結果から、校庭の真ん中にあり、学校のシンボルであるかえでの木を自慢に思っている児童が多く、上級生から引き継ぎ、様々な行事で披露してきた「ソーラン節」には自信と誇りを感じていることが分かる。設問2に対して「楽しく」「みんな仲良し」の学校を多くあげている。児童は伝統を引き継ぐ経験はしてきているが、引き継いだ伝統をよりよいものにしたたり、新しい伝統を築きあげる経験をしてきていない。そこで本時の学習を通して今ある伝統を大切にするとともに、どんな伝統をつくりたいか、そのために自分たちは何ができるかを考えられるようにしたい。

(3) 資料について

本資料は、須賀小学校に残る「どんぐりピアノ」を題材に、それが購入されるまでの全校児童や学校、学校を取り巻く保護者や地域の方々の思いや努力について、当時の新聞記事や学校沿革史、地域の方々のお話をもとに作成されている。昭和24年の戦後間もない時期で、学校も地域も毎日の生活に大変だった時代。まだ十分な施設や設備が整っていない学校で、「音楽」の時間にピアノを使って授業をするということは夢のまた夢であった。しかし、高額ではあるが、学校や地域が一つになり、協力して子どもたちのためにピアノを購入しようとする現実があったことは、何にも益して意義深く教育的価値の高いものである。

資料では、「須賀小学校の子どもたち」が主人公として描かれている。全児童が思いを一つにし、協力し合いながらピアノ購入のために、ヒマワリを育て、イナゴ取りやドングリ拾い等の活動をする。子どもたちは、活動を通して得たお金を「ピアノ様」と書いた貯金通帳に積み立てていくが、ピアノを購入する金額には程遠い。しかし、活動の輪は家庭や地域に広がり、ピアノ購入はやがて村全体の願いとなっていった。そして、当時の生活からは、「学校にピアノ」など考えられない時代ではあったが、どの学校よりも早く「ピアノ」が学校に導入された。学校は、家庭や地域の方々を招き、「ピアノありがとう、感謝音楽会を開いた。また、このことは当時の新聞各社から報道され大きな反響

を得ている。一部の人々から始まった活動が、多くの人々を巻き込み、それが須賀小学校の宝となり、伝統となったことに誇りを持ってよう支援したい。

#### 4 研究主題とのかかわりと他の教育活動との関連

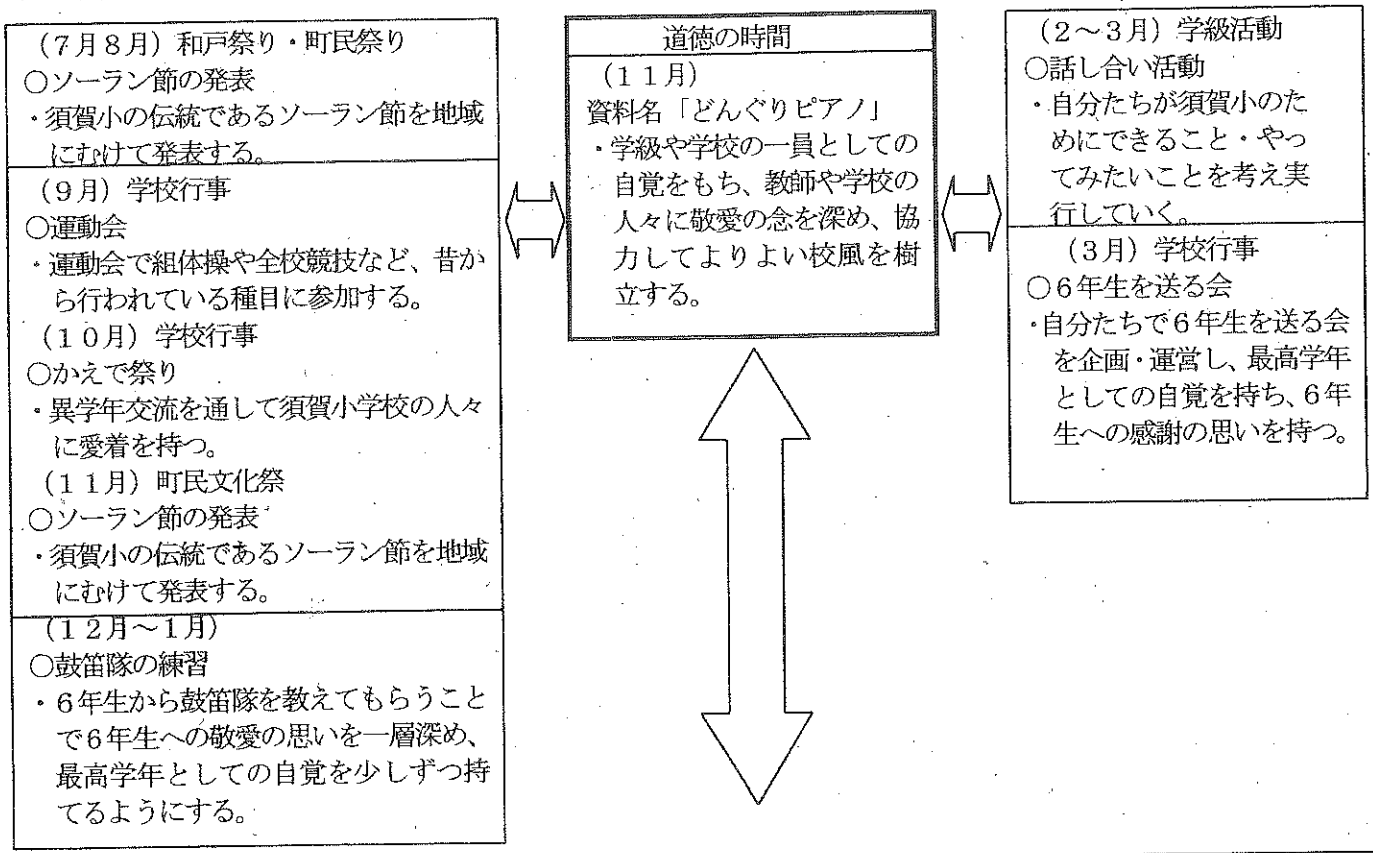
「生きる力」をはぐくむ小中一貫教育の推進  
人とのかかわりを大切にし、共によりよく生きようとする子どもの育成  
(道徳教育を通して)

##### (1) 研究主題とのかかわり

本資料の学習を通して、様々な人々とのかかわりについて考えることができる。伝統を築き、今の自分たちの礎となっている「先人」とのかかわり、共に伝統を築いていく「仲間」とのかかわり、これから伝統を伝えていく「後輩」とのかかわりである。

これらのかかわりに気付けるようにするためには、一人一人が須賀小の一員であるという自覚をもって授業に臨めるようにすることが大切であるとする。そこで、一人一人が自分の考えを表現する場の工夫として、役割演技を取り入れる。ピアノを買うために共に努力し続けてきた仲間たちと話し合う場を設定し、思いを語ることで、様々な人々とのかかわりに気付かせたい。また、終末で、実際にどんぐり集めをされたゲストティーチャーの方から話を聞くことで、先輩たちの努力の結晶である伝統が、今もなお受け継がれていることに気付き、自分たちもよりよい校風づくりのためにがんばろうという意欲をもたせたい。

##### (2) 他の教育活動との関連



#### 家庭との連携

学級通信等で児童たちが学校行事にむけてどのような取り組みをし、そこからどんな成長が見られたのかを知らせていく。よかったところ、頑張っていたところを具体的に誉め、家庭でも話題にあげてもらおう。

#### 5 本時のねらい

自分達の思いを実現するため協力し合って努力した須賀小学校の人々への敬愛を深め、自分たちもよりよい伝統を築いていこうとする心情を育てる。

#### 6 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 ☆◇評価【評価方法】	時間資料
導入 気づく	1 アンケート結果をもとに、須賀小の自慢できる伝統を発表しあう。	・かえでの木 ・ソーラン節 ・鼓笛隊	・アンケートをもとに意見を聞き、本時の価値付けをする。	3分 アンケート結果

	<p>2 資料について条件・状況を 知り、教師の範読を聞く。</p>	<p>登場人物 須賀小の子どもたち 条件・状況 戦後のまだ貧しい頃、須賀小学校にはいつも明るく元 気な歌声が溢れていた。先生方はピアノ伴奏で歌うこと で音楽の楽しさを伝えたいと思うが、当時はピアノなど とても買えなかった。しかし、子どもたちは「ピアノを 買う」という夢の実現に向けて動き出す。</p>	<p>7分</p>
<p>展開</p>	<p>3 心に残ったところを発表 する。</p>	<p>・当時の日本の様子について の掲示・年表を利用しながら、 状況を把握させる。 ・児童の感想を大切にしながら 柱を整理する。</p>	
	<p>4 須賀小の子どもたちの心 のうちについて話し合う。 (1) 絵本のピアノをながめな がら、子どもたちはどんな 事を考えていたでしょう か。  (2) 子どもたちはどんな思い でお金を貯める活動をして いたでしょうか。  (3) 貯金額が、目標の3分の 1にもなっていないこと を知って、子どもたちはど う思ったでしょう。</p>	<p>・ピアノは高く買えな いな。 ・ピアノってどんな音が 出るのかな。 ・ピアノに合わせて歌え たらいいな。 ・ピアノが学校にあった らいいな。 ・ピアノを買って音楽会 を開きたいな。 ・ピアノを買うためにで きることをやろう。 ・お金が貯まってきてう れしいな。 ・もっと貯めてピアノが ほしい。 ・みんなで協力すれば夢 が叶うはず。 ・少しずつでもお金を貯 め必ずピアノを買う。 ・地域の人にも応援して もらえてうれしい。 ・本当にピアノが買える だろうか。 ・春から始めたのにまだ これだけか、無理かな。 ・早くピアノが買いた いの、この調子じゃい つになるのか分らない。 ・絶対ピアノを買いた いから、もっと頑張ろう。 ・ピアノの音を聴いてみ たいからあきらめずに 頑張ろう。 ・みんなで決めたことだ から頑張ろう。 ら頑張ろう。</p>	<p>・どうしてもピアノがほしい 理由に迫れるように、切り 返しの発問を工夫する。 ・不安はあるけれど、須賀小 の子たちがピアノを買う ことに期待と希望を抱い ていたことを捉えさせる。 ・ピアノを買うことが容易な 事ではなかった時代であ ることを抑える。 ・夢の実現のために、自分た ちができることを考えて 一生懸命活動する子ども たちの姿をとらえさせる。 ・通帳をもった子どもたちの 挿絵が少しずつピアノに 近づいていく板書を工夫 し、一歩ずつ夢の実現に向 かっている様子を視覚的 にとらえさせる。  ・活動を始めてから時間が経 ち、不安やあせりを感じて いる子どもたちの気持ち に気付かせる。 ・役割演技を通して、不安と、 頑張ろうという気持ちが 葛藤している気持ちに気 付かせ、それでもなぜあき らめずにがんばれたのか を考えられるようにする。 ☆不安を感じつつも、夢の 実現のためにみんなで頑 張ろうとしている子ども たちの気持ちに気付くこ とができたか。 【観察・発表】</p>

	深める	(4)購入したピアノに合わせて歌を歌う子どもたちは、どんな気持ちだったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノに合わせて歌えてうれしい。</li> <li>・きれいな音だな。</li> <li>・みんなで頑張ってたな。</li> <li>・みんなで協力したから買うことができたんだ。</li> <li>・ピアノをずっと大切にしていって、須賀小に歌声を響かせていこう。</li> <li>・地域みなさん、ありがとう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする価値からぶれないようにする。</li> <li>・いろいろな人の協力によって夢が実現でき、仲間や地域の方への敬愛や感謝の思いを須賀小の子たちが抱いていることに気付くようにする。</li> </ul> <p>☆主人公の喜びを掘り下げて考えることで、みんなでよりよい校風を築き上げることの大切さに気付くことができたか。</p> <p>【観察・発表】</p>	22分
	見つめる	5 須賀小学校のためにこれから自分にできることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんぐりピアノを大切にしていって、ずっと音楽会を続けていきたい。</li> <li>・鼓笛隊の練習を頑張っていて、今までよりもっと上手な演奏を目指したい。</li> <li>・自分たちも、新しい伝統となるような事を築きたい。</li> </ul>	<p>◇よりよい校風をつくらうとする意欲を高めることができたか。</p> <p>【観察・発表】</p>	8分 ワークシート
終末	あたためる	6 実際にどんぐり集めをされたゲストティーチャーの方から話を聞く。			5分

7 評価の観点

☆主人公の姿を通してみんなでよりよい校風を築き上げることの大切さに気付くことができたか。

【観察・発表】

◇愛校心について考えを深めるために役割演技やゲストティーチャーの話は効果的であったか。

【ワークシート・発表】

8 板書計画

